

町のうごき

本籍数	4,024
本籍人口	14,055
世帯数	2,768
住民登録人口	13,093
内 男	6,465
内 女	6,628

12月1日現在



# 町のうごき

No. 34

昭和42年

1月1日発行

発行・秋田県天王町役場 TEL (天王) 1. 42. 135  
編集・企画室 印刷・一日市印刷所 TEL (一日市) 38



## 新春を迎えて

天王町長 藤原慶三郎

町民の皆さん、明けましておめでとうございませう。輝かしい昭和四十二年の新春を迎え、皆さんとともに心からおよろこび申し上げます。



昨年を顧みますといろいろのことがありました。

まず、本町基幹作物の稲作は一昨年より引き続き異状気象と低温に悩まされて、予想外の減収をきたしたことです。農家各位の努力もむなしく、政府売り渡し米は予約数量八万八千八百九十五俵より一万二千九百九十六俵(約八千五百万円)も少なく、前年を下まわる七万六千六百九十九俵にとどまり多大の損失をこうむりましたことは、誠に申し訳のどくに耐えないし、誠に遺憾です。昨年の試練をむだにすることなく意欲を新たに、本年の増収に努力されますよう心からお願ひ申し上げます。

反面、明るいニュースはなんといつても農免道路が採択されたことです。悲願の湖岸道路が近き将来に完成するとき産業、経済の基盤も確立し、八郎潟干拓とあいまって飛躍的發展の可能性を秘めるものと期待するものです。この難問題にたくりくみ確定までの過去の苦しみをふりかえるとき、小畑知事、

鈴木一代議士、渋谷県議ら関係各位に改めて感謝の意を表するとともに、これが実現によりいっそう地元関係者のご協力をお願い申し上げます。

また、長年懸案の二田地区農業構造改善事業も上分水、中分水、下分水が工事に着手し、本町最初の三アール区画に整理され、機械化近代農業の先駆をきり、あすの増収を期待しつつ本町農業振興の主役を果たすこととは何よりもよきこぼしなことであり、最後までこれが実現に努力いたします。

四十年年度決算にみられるよう三十九年度の赤字額約八百六十万円を返済して、なおかつ約九百十五万円の黒字をだし、町事業を完遂しつつ健全財政を堅持し得ましたことも、町民各位の町税に対するご理解とご協力のたまものと心にふかく銘記し、皆さんのご期待にこたえるよう自らのエリを正して努力をする覚悟です。

国民健康保険の被保険者もことし(一月一日)から全世帯員七割給付々を実現し、町民の自主的な計画で生まれた「天王町健康生活推進委員会」も、長寿の町天王々をめざして各種健康診断の適時実施、環境衛生の改善など健康で明るい町づくりに、力強く一歩一歩前進をたどりつつあります。

人づくりの根源である社会教育も公民館活動と平行して、序々にその実績をあげつつありますが、この社会教育の充実こそもつとも大切な課題であると確信し、本年は重点施策の一つとしてとりあげたい所存です。若い世代が新しい社会をつくることは、古今東西を問わず永遠の真理であります。社会教育と学校教育とを有機的に結びつけ、子どもから信頼され自信ある親として、さらに、若い世代の指導者にふさわしい社会人としての態度を方向づけるに役立てたい考えであります。

昨年指定されました秋田湾地区新産都市の計画も本町は四十五年以降となっており、現在見るべき事業も実施しておりませんが、用地の確保、工場誘致に対しては地道な運動を展開しております。その前途はきわめて明るく期待できるものがあり今後いっそうの努力を傾注し、工業開発によつて出かせぎ問題やその他の諸問題を解決したい覚悟です。

また、本年は町会議員の選挙が施行されますが、町発展の重大な時期に際し町民各位は自らの良識に訴えて、四年間自分たちの代表として送るに恥ずかしくない人物をご選出あらんことを心からお願ひします。

最後に、本町は近き将来名実ともに大変化、大発展を約束されておる現状です。この歴史的発展につながる町づくりに、過去の感情を排し全町民一致団結してご協力くださるよう心からお願ひをいたし、年の始めにあたり決意を新たに、町民各位とともに歩みを進め町発展のため希望に満ちた明るい年にしたいと思ひます。



# 成人おめでとう

## ◎成人式は15日に天小で◎

成人の日を迎えられるみなさん、おめでとうございます。終戦の混乱期に生をうけて、苦しい戦後を生き抜き、いま社会人として輝かしいスタートをきるみなさんに心からお祝いを申し上げます。

成人の日にふさわしい多様な日程が組まれています。みんなが出席して、成人者自身の日を有意義にしてください。

**成人式日程**

内容	時間
受付	一〇・〇〇～
式典	一〇・三〇～
記念講演	一一・〇〇～
記念撮影	一一・〇〇～
昼食	一二・三〇～
町長を囲む会	一三・〇〇～
おわりの会	一四・二〇～

満二十歳になられるみなさんは、法律的にも社会的にも完全な行為能力が認められ、りっぱなひとりまえに独立した人格を持つ社会人となったことを意味するものです。

つぎのようにおとなとしての権利を得られ、それと同時におとなとしての義務も果たさなければなりません。

本町ではことし二百九十二名(男百四十三名、女百四十九名)が成人の日を迎えますが、おとなになったことを自覚し、自ら生き抜こうとする新成人を祝います。天王町成人式は一月十五日、天王小学校で行ないます。

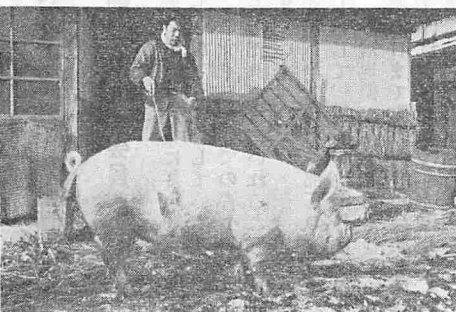
当日は式典のあと記念講演や町長を囲む会なども計画され、

**塩口、羽立に新投票区**

中羽立票区は廃止

町選挙管理委員会は、先の委員会で塩口と羽立へ新たな投票区を設置することに決めた。

これによって、これまでの中羽立投票区は廃止され、本町の公職選挙法に基づく選挙(衆、参議院議員、知事、県議員、町長、町議会議員などの選挙)の場合の投票区は天王、塩口、羽立、大崎、江川、二田第一、二田第二、戸出、追分の九投票区となる。



**養豚共進会**が昨年十二月十五、六日の両日開催された。養豚の資質向上と健全な育成を促進するため毎年行なっているもので、今回が四回目。

未経産で一等になつた高橋さんの豚

参加豚数は未経産十八、経産三十一の合わせて四十九頭で昨年を大幅に上まわつた。

入賞者は次のとおり

**▲未経産**

- ▽一等 高橋新一郎(二田)
- ▽二等 薄田国三郎(二田)
- ▽三等 上坂勇三(天王)
- ▽四等 藤米蔵(二田)
- ▽五等 大関春雄(二田)
- ▽六等 三浦甚五郎(大崎)

**▲経産**

- ▽一等 佐々木幸吉(戸出)
- ▽二等 菊地右太郎(上戸)
- ▽三等 三浦友栄(大崎)
- ▽四等 田秀雄(羽立)
- ▽五等 吉田吉治郎(大崎)
- ▽六等 三浦貞雄(大崎)

## 養豚共進会開く

### 49頭が参加

今回は、稲の取り入れ作業の大幅な遅れに伴って開催時期もかなり延びたため、豚舎巡回の方法をとり、参加申し込み者を審査員が巡回して審査にあつた。

参加豚数は未経産十八、経産三十一の合わせて四十九頭で昨年を大幅に上まわつた。

入賞者は次のとおり

**▲未経産**

- ▽一等 高橋新一郎(二田)
- ▽二等 薄田国三郎(二田)
- ▽三等 上坂勇三(天王)
- ▽四等 藤米蔵(二田)
- ▽五等 大関春雄(二田)
- ▽六等 三浦甚五郎(大崎)

**▲経産**

- ▽一等 佐々木幸吉(戸出)
- ▽二等 菊地右太郎(上戸)
- ▽三等 三浦友栄(大崎)
- ▽四等 田秀雄(羽立)
- ▽五等 吉田吉治郎(大崎)
- ▽六等 三浦貞雄(大崎)

## 10日に出ぞめ式

### 110名を表彰

恒例の天王町消防団出ぞめ式は一月十日の午前十時半から天王中学校講堂で行なわれるが、この式で第五分団の三浦多喜蔵分団長ら百十名が晴れの表彰を受ける。所属、氏名は次のとおり。

**△有功章**

- ▽第五分団 三浦多喜蔵(分団長)
- 【二十五年勤続章】
- ▽第二分団 柏崎佐吉郎(副分団長)

**△消防協会会長表彰**

- ▽天王本郷会 戸田四郎(会長)
- 【十五年勤続章】
- ▽第一分団 小柳良雄(団員)、保坂竹男(同)、高橋新一郎(同)。
- ▽第二分団 柏崎辰雄(同)。
- ▽第四分団 菊地堅一郎(副分団長)、伊藤堅三郎(同)。
- ▽第七分団 榎庭永一(同)。
- ▽第十分団 丸谷富七郎(班長)
- 【十年勤続章】
- ▽第六分団 鈴木美夫(同)、鈴木為春(同)、安田金春(同)、島崎竹市(同)。
- ▽第七分団 榎庭金吾(同)。
- ▽第八分団 加賀谷竹雄(同)。
- ▽第九分団 菅生福太郎(同)。
- ▽第十分団 菅生福太郎(同)。
- ▽第十一分団 菅生鉄作(班長)、菅生市蔵(同)、菅生秀雄(同)、菅生佐之助(同)。
- ▽第十二分団 菅生伊治(同)、菅生徳太郎(同)、菅生重清(同)、菅生哲三(同)、菅生一男(同)。

**△消防協会男鹿・南支部長表彰**

- 【七年勤続章】
- ▽第三分団 武田竹広(同)。
- ▽第四分団 菊地鉄四郎(同)。
- ▽第五分団 菊地金三郎(同)。
- ▽第六分団 石川泰雄(同)。
- ▽第七分団 榎庭金三郎(同)。
- ▽第八分団 榎庭清悦(同)。
- ▽第九分団 佐々木松雄(同)。
- ▽第十分団 佐藤政雄(同)。
- ▽第十一分団 洪谷政一(同)、洪谷貞雄(同)。

**△天王町長表彰**

- 【優良団員】
- ▽第一分団 保坂竹男(同)。
- ▽第二分団 佐藤知雄(同)。
- ▽第三分団 藤原運蔵(同)。
- ▽第四分団 古山市雄(同)。
- ▽第五分団 菅原清(同)。
- ▽第六分団 安田松雄(同)。
- ▽第七分団 榎庭金吾(同)。
- ▽第八分団 加賀谷豊治(班長)。
- ▽第九分団 成田一二(班長)。
- ▽第十分団 丸谷富七郎(班長)。
- ▽第十一分団 菅原重清(同)。

**△消防施設整備に協力**

- ▽榎庭喜六(塩口漁協組合長)
- ▽菅生喜兵衛(中羽立部落会長)
- ▽寺沢正彦(鶴沼台部落会長)
- ▽安田慶雄(羽立) 榎庭敬治郎(洪谷) 渡部長助(上戸)
- ▽模範団員 第二分団 村山護(同)。

**△消防協会男鹿分会長表彰**

- 【五年勤続章】
- ▽第七分団 榎庭兼秋(同)。
- ▽第九分団 進藤信一(同)。
- ▽水沢正夫(同)。
- ▽佐々木鐘吉(同)。

**▲共同募金運動**

昨年十月に行なわれた赤い羽根共同募金運動は、二十八万四千円を目標額に、町民の皆さんからご協力をお願いしていたが目標額の百六・八パーセント

**▲善意ありがとう**

【火災予防組合育成指導】

トにあたる三十三万五千九百九十円が寄せられた。

**▲歳末助け合い運動**

十二月に行なわれた歳末助け合い運動には、十二月二十日まで現金十一万四千円のほか、天王更正保護婦人会(鈴木千代会長)から衣類百点、秋田市仁村商店から毛布十九枚、二田

の榎庭質店からオーバー二着がさらに東湖小学校の柏崎洋樹(一年)、万紀子(四年)のごきょうだいは「ほくとおねえちゃんは大きくなったので、きられなくなつたのをこまつた人にあげてください」という手紙といっしょに、衣類三十四点が町の社会福祉協議会へ寄せられた。

**お出かけのとき「たばこ」がきれそうだったら町内の店から買いましょ**

